



11月5日「世界津波の日」

日本主導で提案、国連制定

【ニューヨーク共同】国連総会第2委員会は4日、11月5日を「世界津波の日」に定める日本主導の決議案を満場一致で採択した。東日本大震災から来年3月で5年となるのを前に、津波の脅威と対策への国際的な意識を高めるのが狙い。日本や島しょ国など142カ国が共同提案した。

日本政府は江戸時代の安政南海地震（1854年）で紀伊半島などが大津波に襲われた旧暦の11月5日を「津波防災の日」と定めている。この地震の際に津波が押し寄せた和歌山県広川町には、村人が積まれた稲わらに火を付けて人々を高

台に誘導した「稲むらの火」の逸話が残っている。国連では日本などが主導した「国際防災の日」（10月13日）が既に制定されているが、政府筋によると、津波に特化した国際デーは初めて。安倍晋三首相は採択を歓迎し「わが国が培った防災の知見や経験を生かし、今後ともより強靱（きょうじん）な国際社会の構築に貢献していく」との談話を発表した。決議は、今年3月の国連防災世界会議で採択された国際行動指針「仙台防災枠組」に言及し、津波への備えや早期警戒システムを通じた情報発信の重要性を指摘した。

2015年12月6日 朝刊

①「世界津波の日」制定を主導した国はどこでしょうか。

[]

②「世界津波の日」制定に向けて共同提案した国の数を書きましょう。

[]

③11月5日にちなんだ逸話を書きましょう。

[]

年 組 名前

(小学校中学年以上 社会・総合)